

BSE根絶のための 飼料規制について

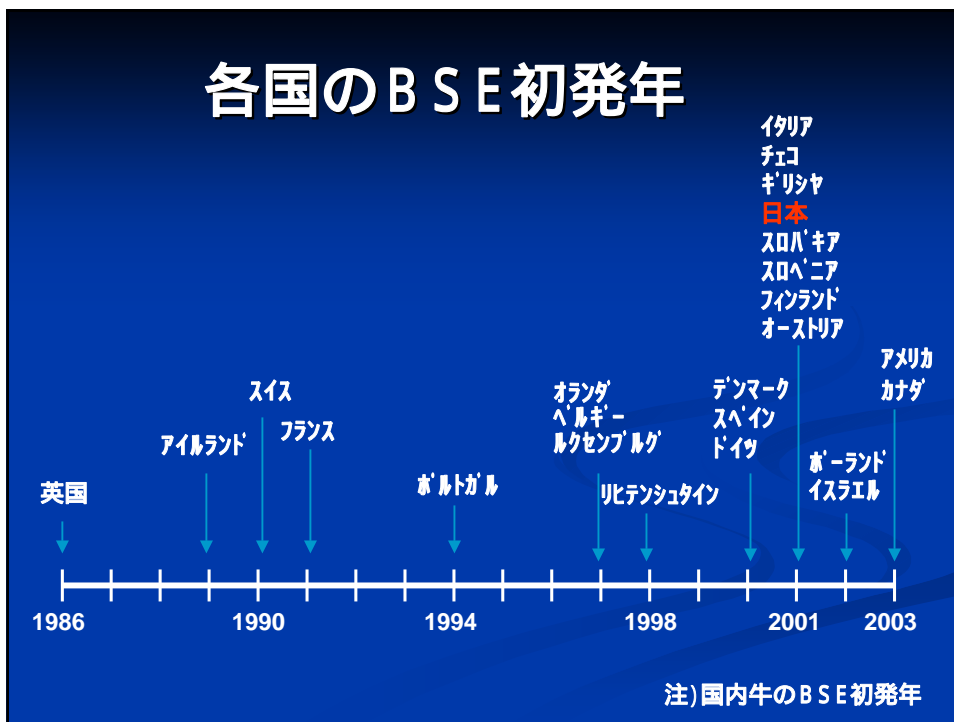
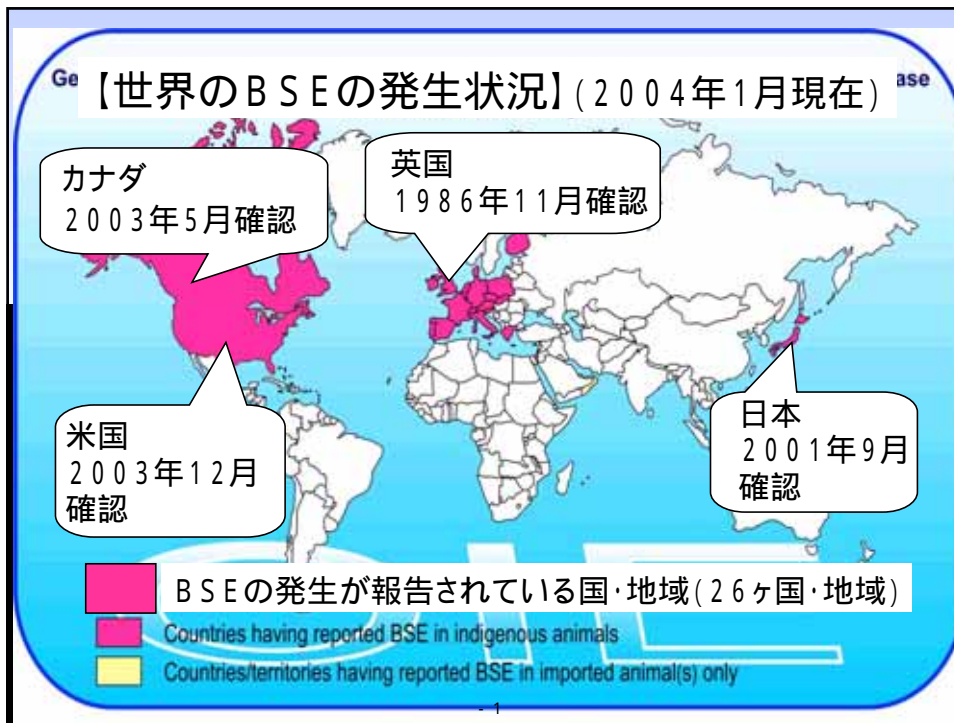
「食品安全委員会への諮問の考え方について」

平成16年11月

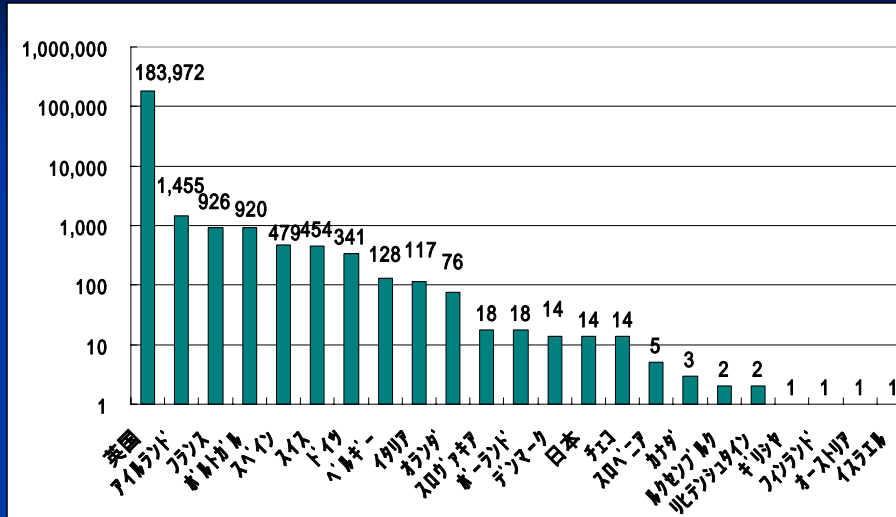
農林水産省 消費・安全局

BSEの発生

- 英国におけるBSEの発生
 - 異常プリオンタンパク質を含む肉骨粉の牛への給与が原因
 - 1986年以降18万頭以上に発生
- 日本におけるBSEの発生
 - 1～7、10、11、13頭目
平成7年12月～平成8年4月生まれ
 - 12頭目 平成11年7月生まれ
 - 14頭目 平成12年10月生まれ
 - 8、9頭目
平成13年10月、平成14年1月生まれ



各国のBSE発生頭数



資料: 国際獣疫事務局(OIE)2004年10月18日現在

5

BSEの原因究明(その1)

■ 原因究明 (BSE疫学検討チーム報告書(平成15年9月))

・肉骨粉の牛用飼料への製造・輸送段階の意図しない混入による感染の可能性



具体的にはどのような感染源・感染経路か

BSEの原因究明(その2)

■ 感染源

- ・英国から輸入された牛の中にBSE感染牛がいて、これが肉骨粉となり、国内牛が曝露され、この牛が再度肉骨粉となり、感染源となった可能性
- ・1990年以前に輸入されたイタリア産肉骨粉に含まれていたBSE病原体により国内牛が曝露され、その牛の肉骨粉が感染源となった可能性

オランダ産動物性油脂については、使用された油脂は精製度も高く特定部位由来の動物性たん白質が混入していた可能性は低いなどから、汚染していた可能性は低い

BSEの原因究明(その3)

■ 感染経路

- ・肉骨粉を介した感染経路としては、配合飼料工場における配合飼料の製造・配送段階において牛用飼料に交差汚染した可能性
- ・動物性油脂については、代用乳の原料として添加されているが、これを直接感染経路として結びつけるには難しい面がある

